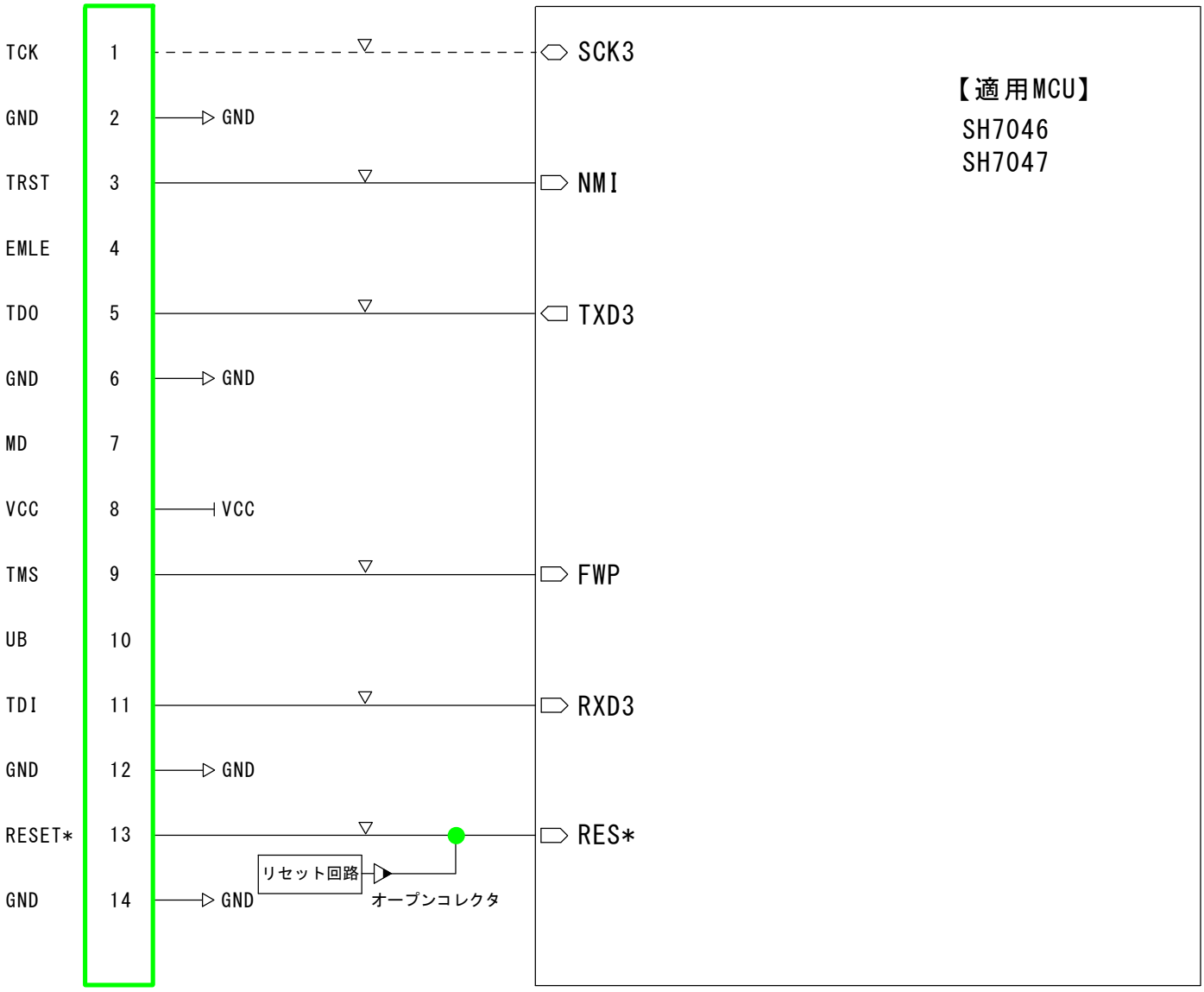
【接続例21】SH7046,7047の場合(ブート接続)



1) ▽印はプルアップ抵抗です。抵抗値は4.7K～22Kの範囲を推奨します。
2) リセット回路の遅延時間は200msec以下になるようにハード設計をしてください。
3) CPU動作モード(ブート・実動作)設定回路は、ユーザー(ターゲット)側で用意して下さい。
4) CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期/クロック同期の選択ができます。
5) SH7046の場合、RXD3(PA8) TXD3(PA9) SCK3(PA11)になります。
6) 未使用ピンは、AH8000側で入力設定またはゲートオフ設定 [TRST:3/TMS:9]にしています。
☆破線の信号は、CPU設定の指定で使用／未使用が変化します。